

大田区成年後見制度等利用促進協議会 金銭管理勉強会(第3回)議事録

日時	令和8年3月13日(金) 10時30分～11時45分
会場	大田区消費者生活センター1階 mics おおた教室
出席者	≪委員≫ 【協議会委員】近藤委員(部会長)、有我委員(副部会長)、渡邊委員、星野委員、 菅野委員、神作委員、武原委員 【行政委員】 松田委員、根本委員 ≪事務局≫ 【社会福祉協議会】大淵事務局次長、岡田おおた成年後見センター長、 福本係長、吉田主任、白石主事、中村主事、川口主任、権田主事 【大田区】黄木福祉支援調整担当課長、 菊地調整担当係長、高橋調整担当係長、千葉主事、浅井主事
議事要点	○高齢者等の終身サポート事業などにおいて、成年後見制度の終了が検討されるようなケースも対象者として検討できる形を国は発信しているが具体的な検討がなされる必要があるのではないかな。 ○選択肢はいくつかあった方が良いため、状況によっては、事業者が管理をするのをチェックするような事業の検討もすべきではないかな。 ○単身高齢者等の総合相談支援事業と、第二種社会福祉事業の新たな事業と、どうすり合わせていくか、意見を出しあうと良い。 ○本人の価値観に寄り添い、関わっている支援者全員と本人とで、どのような支援が良いのか、本人の心を動かすことは何か、納得される落としどころはどこかななどを話し合うことが大事だ。 ○シャドーワークを地域課題として捉え、解決するためのサービスや制度を考えるとともに、本人がどうしたいかという意向を尊重することが重要だ。 ○高齢者等の終身サポート事業などにおいて、債務整理の手続きなどに専門職が関わることで、対象者の枠が広がるのではないかな。 ○大田区らしい支援を考えるうえで、利用者が「ここにつながっていると安心」と思えるものとなる検討を。 ○死後事務支援の相談窓口があったとしても、まずどこに相談したら良いかわからないのではないかな。情報提供を受けた本人が、自分事と捉えて進めていけるよう日頃関わりのある事業者や支援者と話すことが重要ではないかな。 ○後見が終了することは望ましいが、契約社会の中で後見制度を利用することの安心もある。契約行為について、これからどのようなサポートしていくのか、誰が担っていくのか、上手く使えるような制度になると良い。 ○成年後見制度を利用している人が、法的な課題が解決し、後見制度を終了して、チーム支援をさらに充実させていく、という形をつくるためには、その受け皿となる日常的な金銭管理を支援するしくみが必要である。

大田区成年後見制度等利用促進協議会 金銭管理勉強会(第3回)議事録

中核機関の まとめ	●金銭管理勉強会で検討 大田区らしい金銭管理のしくみ
--------------	-------------------------------